

例の臨床効果は著効1例、有効8例であり全例有効以上の判定であった。細菌性疾患と考えられた症例のうち、有意菌と思われるものが分離されたのは急性気管支炎1例、肺気腫+感染2例の合計3例であった。分離菌はいずれも*Haemophilus influenzae*であったが、すべて除菌できた。

自他覚的な副作用は症例9の1例に認められた。すなわち投与4日後より悪心、嘔吐が出現し、投与5日後より舌炎が生じてきたため6日後より投与を中止した。輸液を行ったところ、症状はまもなく改善した。投与前後の臨床検査成績をTable 2に示す。TMFXによるとと思われる異常変動は1例でGOT、GPTの上昇(症

例6)を認めたが、軽度であり薬剤の継続投与が可能であった。

我々は9例の呼吸器感染症に本剤を使用した¹⁾が、いずれも有効以上の高い有効率であった。TMFXは喀痰移行が良好な合成抗菌剤であることから¹⁾、呼吸器感染症に対して良好な臨床効果が期待できると推測された。

文 献

- 1) 那須 勝, 熊澤 浄一: 第39回日本化学療法学会西日本支部総会, 新薬シンポジウム, Temafloxacin (TA-167), 大分, 1991

Clinical studies of temafloxacin

Yasutoshi Suzuki and Osamu Sekine

Department of Internal Medicine, Suibarago Hospital

13-23 Okayama-cho, Suibara-mati, Kitakanbara-gun, Niigata-ken, 959-21, Japan

Katuji Uno and Motohiro Yagi

Pharmacy, Suibarago Hospital

We evaluated the clinical efficacy and safety of temafloxacin (TMFX), a new quinolone antimicrobial agent. TMFX was used to treat 9 patients with respiratory tract infections and 1 patient with PIE syndrome. Clinical response was excellent in 1, good in 8 and undetermined in 1 patient.

Adverse reactions were observed in one patient (nausea, vomiting and glossitis). Abnormal laboratory values were noted in one patient (GOT, GPT), but were not clinically significant.